

津波被災により湾を一望する高台に移転

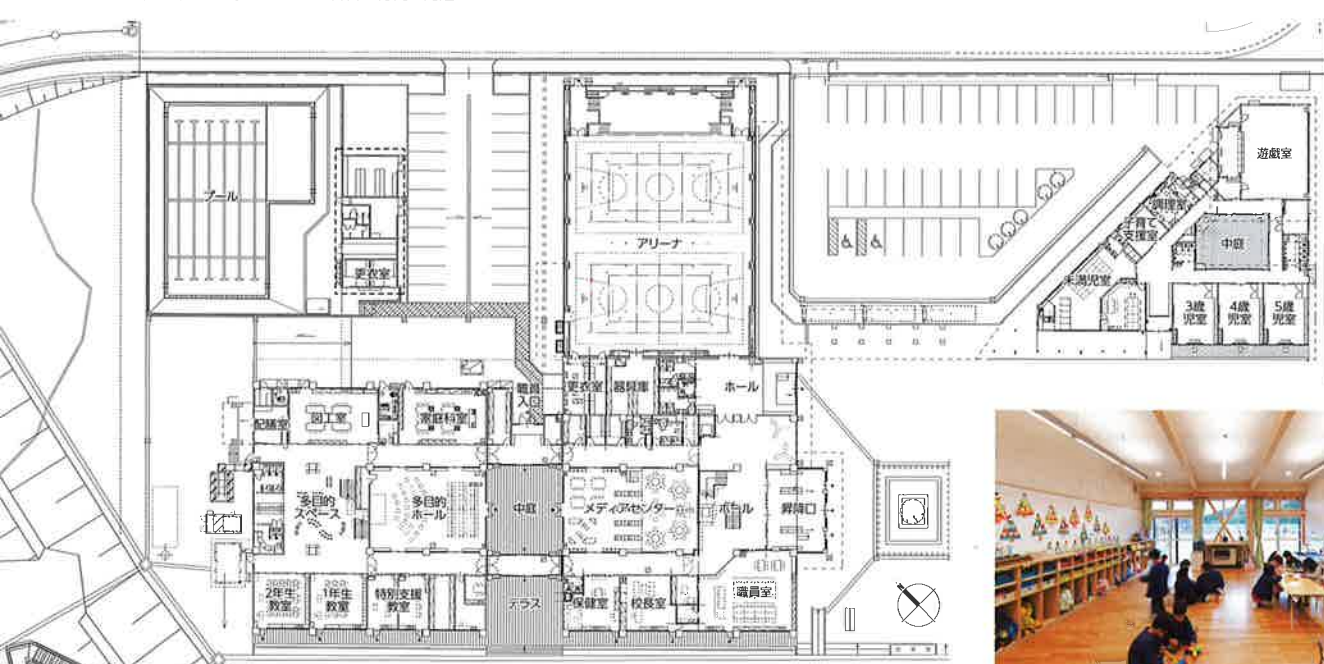
大船渡市立越喜来小学校・越喜来こども園

岩手県大船渡市

設計・監理 佐藤総合計画
施工 東急・正三特定建設工事共同企業体



左／昇降口から多目的スペースを見る メディアセンター上部を通して中庭まで見通せる 右上／専用昇降口 2階のスチールカーテンウォールからの陽光が降り注ぐ 右中／1階メディアセンター 奥のPC教室と
一体利用が可能 右下／2階多目的スペースから昇降口方向を見返す



小学校1階およびこども園1階平面図 縮尺1/1,000



校舎全景と復興のシンボルとしてカリヨン塔を設けた広場



南側グラウンドに面したこども園の5歳児室

設計主旨

一「ブリッジ」の遺志を引き継ぐ防災拠点づくり

大船渡市立越喜来小学校は地域の3校統合を控えた2011年3月に東日本大震災による津波で校舎を失った。この越喜来小学校の被災にはよく知られたエピソードがある。3月11日の地震後、高さ10m、3階の教室までに及び津波が押し寄せたのは、児童全員が迅速に無事避難した後のことであった。この不幸中の幸いともいべき結果を導いたのは、ひとりの市議のはたらきによるものであった。いずれ来る大地震を危惧し、ある市議が裏山へ直接避難できるブリッジを設置するように議会に働きかけ、紆余曲折を経てこの避難ブリッジが完成したのが、津波が校舎を襲う直前の2010年12月だったのである。この市議はブリッジの完成を見ずに亡くなったこともあり、市議の遺言により児童全員が助かったと、当時多くのメディアで取り上げられた。

この市議の遺志も引き継ぎながら、新設の越喜来小学校は地域の防災拠点として、そしてまちの復興のシンボルとして計画されることとなった。そのため、新たに越喜来地区の高台に約40,000㎡の土地を造成し、校舎を新築したものである。

校舎は越喜来湾を一望できる海拔53mの高台にあり、越喜来の集落を見守るように建つ。敷地の北側に校舎と屋内運動場、プールを配置し、南に広くグラウンドを設けている。また、同じ敷地内に未就学の児童が通う越喜来こども園も同時に建設された。

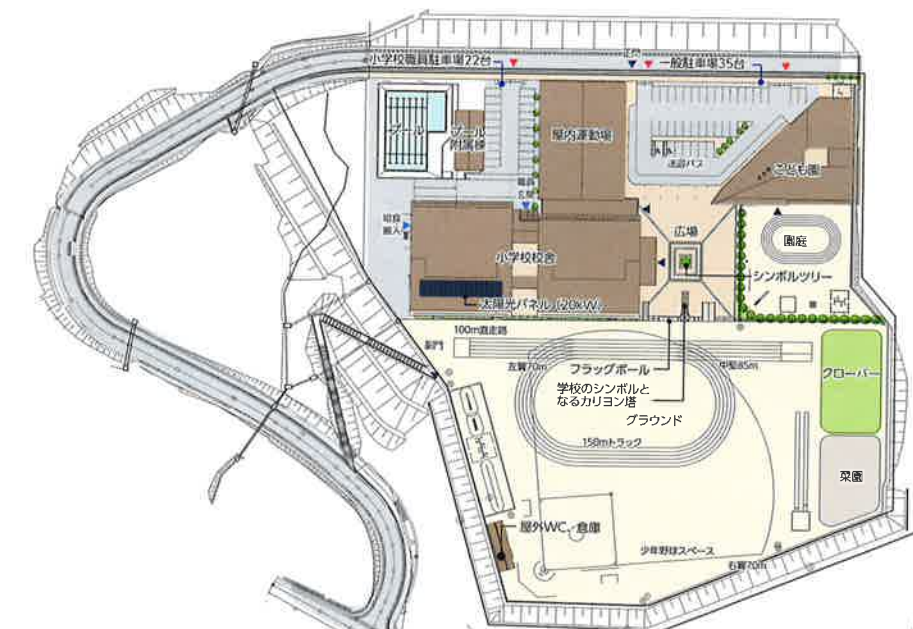
一 見通しの効くシンプルな構成の校舎棟

校舎の構造は1階の全てと2階の外周部をRC造とし、2階の内部柱と小屋組を木造の混構造として、RCの耐久性と木造の温かみを両立させると同時に耐震性とコストの調和を図っている。特にコスト意識を重視し、RC躯体や木軸組は最小の数量でいかに経済的かつスマートに組み上げることができるかをテーマとして設計を行った。

ゾーニングは、普通教室、特別教室などの固定化された各室は南北に振り分け、北側に特別教室、南側に普通教室を配置している。その上でこれらのゾーンに挟まれた東西に伸びる直線上のリニアなゾーンに東側から昇降口、階段、多目的スペース、メディアセンター、中庭などの柔らかい機能空間を配置して、この空間が透明感のある校舎の中心空間となるように、スチールカーテンウォールや耐火ガラス壁により適宜仕切りながら、木造架構をリズムカルに配して、どこまでも見通しの



校舎全景と復興のシンボルとしてカリヨン塔を設けた広場



配置図 縮尺1/2,400

きくパースペクティブな空間となることを意図した。

また、東西方向の長さに対しては校舎の中心に中庭を設けてヴォリュームを分節し、スケール感を和らげている。

一 避難施設として機能する校舎

屋内運動場は地域の避難施設として冬期でも活用できるように床暖房を設置している。更衣室に設置したFFファンヒーターを熱源として、屋内運動場アリーナの床フトコロに配置した送風ダクトを介して床面に温風を吹き付けて床を暖める方式を取っている。また、太陽光発電および蓄電池、非常用発電機、防災備蓄倉庫の設置や雨水利用などの災害時対策を行っている。これらの機能を材料とした教育が防災意識を高め、越喜来のまち全体が、防災に強いまちとなる一助となることを期待したい。

(五十嵐哲也／佐藤総合計画)

五十嵐 哲也……いがらし てつや
1966年北海道生まれ。1993年芝浦工業大学大学院修了後、佐藤総合計画入社。現在、同社東北事務所上席主任担当

大船渡市立越喜来小学校・越喜来こども園 データ

所在地 小学校：岩手県大船渡市三陸町越喜来字小出24-4 こども園：小出24-24

主要用途 小学校、認定こども園

建築主 大船渡市

設計・監理 佐藤総合計画

担当／西村裕之、五十嵐哲也、桑原賢司、斎藤幸博、渡邊 森、渡邊光三

施工 東急・正三特定建設工事共同企業体

担当／下谷徳明

【建築概要】

敷地面積 25,117.11㎡

延床面積 5,363.64㎡

構造規模 校舎棟（東・西）：RC造、一部木造 地上2階

屋内運動場：S造 地上1階

プール棟・こども園棟：木造 地上1階

設計期間 2012年9月～2013年9月

工事期間 2015年7月～2016年10月

撮影／近代建築社（葛西龍）

協力会社

鉄骨工事	力ガヤ
鉄筋材料	東京鉄鋼
外壁工事	吉田産業
アルミ製建具工事	Y K K A P
金属製建具工事	中央鋼建
シャッター工事	文化シャッター
防水工事	東興アイデック
プールの過装置	東北機水
プール工事	ヤマハ発動機
空調設備機器納入	ヤマケンマシナリー
キュービクル・分電盤・端子盤	東和電機工業